

「SORAデザイン」がつくった
熊本市東区在住 / Tさんの住まい

気取らず自分らしく 家は好奇心を満たす相棒

「作ることが好き」というTさんは、仕事も趣味も何でも楽しめる自由の達人。自由な心を受け容れる家は、人生の相棒だ。「好奇心」を家という形で表現するならば、きっとこんな形をしているだろう。



空間の居心地を後押しする
レッドシダーの静謐な表情。

「大事に一生使いたいと思えるか。その基準で自分に合ったものを選びます」とご主人。[SORAデザイン]もそんな視点で選んだ

セルフリノベしたわが家が 購入から1年半後に被災

「鹿児島島の枕崎までキャンプに行っていて、昨日帰って来たばかりなんです」と、冒頭からなんともアクティブなエピソードを披露してくれたのは、熊本市東区に住むTさん一家。ご主人と奥さま、3歳の長女とやがて1歳の誕生日を迎えるという次女の4人暮らし。実はTさん一家は、2015年にこの場所に建っていた中古住宅を購入していたとか。「住みたいエリアを優先し、土地の相場くらいの予算の物件を選びました」という築30年の和風住宅は、ご主人が持ち前のセンスと器用さで自らリノベーションを施し、お気に入りのキッチンや薪ストーブを設置するなど、大切に暮らしぶくりをしていたとか。ところが住んで1年半ほど経った頃、熊本地震に見舞われる。家は被害も大きく、修理か、建て替えかという苦渋の決断を迫られることに。「昔からモノには愛着が湧くタイプなので、解体するかどうかさすがに悩みました」とご主人。



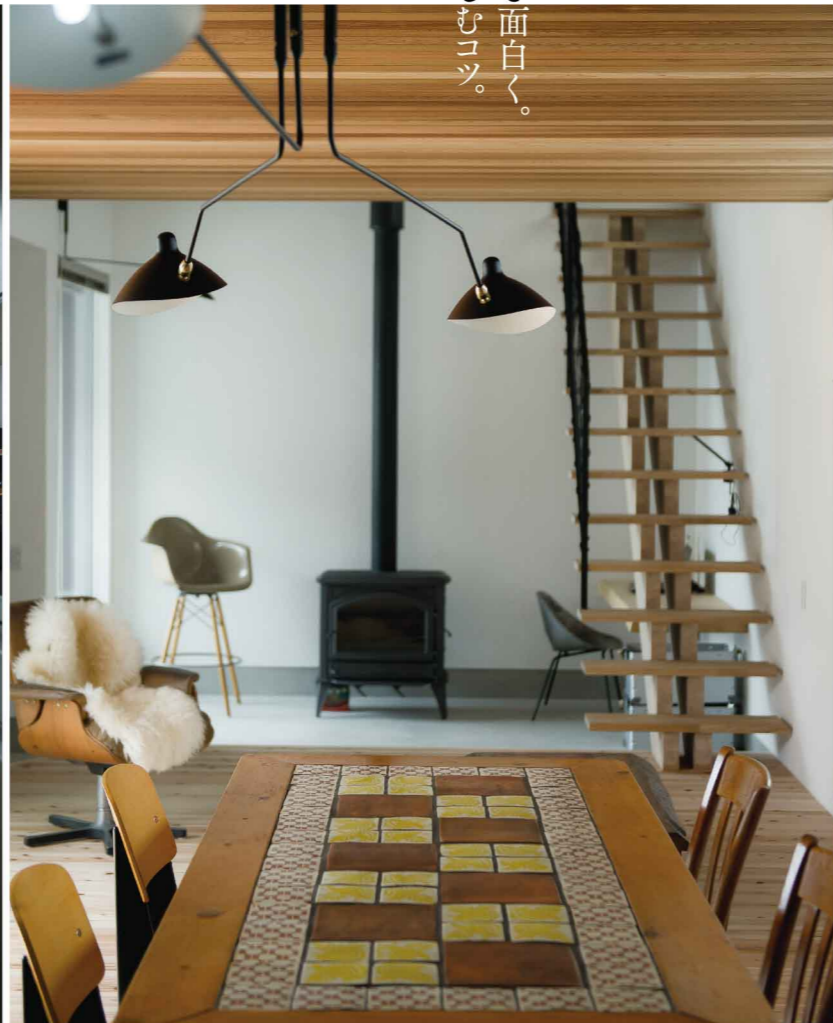
[SORAデザイン]の家は、モルタルの外壁や珪藻土の内壁、無垢材の床板を使った足触りのいい家が多く、仕上がりのイメージもドストライクでしたね」とご主人



ありふれた日常を面白く。
視点を変えて楽しむコツ。



薪ストーブの手入れのしやすさや来客の多さを加味して、土間を広く取った玄関。ゆるやかに弧を描く床のデザインがシンプルながらポイントに



子どもたちにしてあげるだけ
たくさんの刺激をあげたい。

インテリアや家具は、新旧織り交ぜて自分らしく。椅子やキッチンとは以前から使っていたもの。ダイニングテーブルはアンティークで、照明は「レッドシグナーに似合いそう」と新しく購入

長女の誕生をきっかけに約2年前からはじめた家族キャンプ。今では月イチで必ず行くほどハマっているとか

紹介されたビルダーに
シンパシーを感じて

セルフリノベーションを施した
思い入れの深い家が被災したT
さん。最終的に「一生に一度は家
を建ててもいいんじゃないか」
と、前向きに建て替えの道を選
んだという。2度目のマイホー
ムを「SORAデザイン」に依頼
したきっかけは？と尋ねると
「住宅設備メーカーに勤めていて
多くのビルダーの家を見ている
友人がいるんです。その人に「僕
が家を建てるならどこがいいと
思う？」と聞いたら「SORAデ
ザイン」って言われて。僕はそれ
までSORAデザインの存在を
知らなかったんですが、訪ねて
行ったらこの代表がいて（笑）。
そう話すご主人の口ぶりは、ま
るで気の合う友達を見つけた時
のように嬉しそうだ。数社のビル
ダーに図面を書いてもらったも
の、暮らしを楽しむ要素や利
便性を踏まえた、自由な発想で
図面を引く「SORAデザイン」
のプランがベストと感じたのだ
という。

確かなつくりの家を彩る
あふれるセンスが決め手

設計に関するTさんのリクエ
ストは、敷地内で車がUターンで
きること、効率的な生活動線、
薪ストーブの導入、キッチンから
子どもが見えること。そして風
が抜ける明るい家だった。「主人
も仕事柄色んな家を見るので、
新居のプランも最初は何かとこ
だわっていたようです。でも途中
から「言うことが理に適っている
から」という意味でSORAデザ
インに任せていましたね」と話す
と、ご主人と顔を見合わせイタ
ズラに笑う奥さま。Tさんに
「SORAデザイン」を紹介した
友人同様、住宅設備の仕事をして
いるご主人。センスあふれるデ
ザインやそれを形にするための
高度な技術、さらに気取らず暮
らしを楽しむ家づくりの考え方
まで全部ひっくるめて、共感でき
るビルダーとの出会いは大きな
喜びを感じていたに違いない。
Tさんご夫妻と「SORAデザ
イン」の間には、ビルダーと施主
という関係性を越えた深い絆さ
え感じられた。

住まい手を受け容れる家と
家を生かす住まい手の幸福な出会い。



私の
好きな場所

【土間】

暮らしを120%楽しむTさんとさえ「まだ持て余しています(笑)」という土間。これからどんな用途を見出すのかに期待!

COMPANY DATA

株式会社 SORAデザイン
熊本市南区江越1-6-5

連絡先
TEL 096-288-9801

HPアドレス
www.soradesign.biz

詳しい情報は
106ページに掲載



建物の形状を利用して軒を長く出したウッドデッキ。ある時はキッチンに、ある時はリビングになる多用途な空間だ



吹抜けにある2階の子ども部屋から見下ろせば、床板の温もりを感じる木目が印象的なリビングの景色が目に入る



構造上問題は無いもののモルタル塗の土間は、ひびが入りやすいもの。そのひびを間仕切り利用するセンスに脱帽!

「こうしたい!」の形に
デザインがついたなら

「子どもたちが習い事や勉強で忙しくなる前に、キャンプをはじめ、日常のあらゆるシーンで出来るだけたくさんさんの刺激を与えてあげたいです」と

口をそろえるTさんとご夫妻。そんな一家に「SORAデザイン」が提案したのは、好奇心旺盛で多趣味なご主人の生活スタイルや、日頃から人が集う家であることを踏まえた、日常をより楽しむための設計。たとえば、ダイニングと直結する広いウッドデッキは、トイレからキッチンへと回遊するさりげない動線もポイント。「仕事が早く終わったら、料理をします(笑)。手頃で美味しい旬の食材を見つけたのも楽しいですよ!」というご主人は、魚を二尾丸ごと買って来てさばいたり、自家製の焼き鳥やベーコン、チーズを作るほどの腕前。

かち合える趣味の時間をストレスフリーに満喫している。暮らしを楽しむ術を知っているTさんのために「SORAデザイン」が作り上げた家は、一家のアクティブな日常にピッタリとフィットしていた。



キッチンとダイニング、ウッドデッキの3つのスペースは、料理に合わせて使い分けながらフル活用。「バイクや釣りなど二人で楽しむ趣味もいいけど、子どもとの時間は今しかないのでから」と、料理やアウトドアなど家族と分